

## 冬期間の工事において、除雪作業や低温における作業効率の低下を考慮し、雨休率(係数)を冬期の占める割合に応じ補正

### ※ 雨休率(係数)

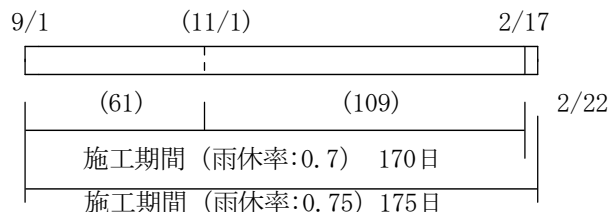
休日(土日、祝日、年末年始休暇及び夏期休暇)と降雨日等の年間の発生率及び除雪に要する換算日数並びに冬期における作業効率の低下を考慮した係数。

冬期間(11月1日から3月31日)が施工期間に占める割合の雨休率

冬期間が施工期間に占める割合(%)	雨休率	備考
0以上 ~ 30未満	0.7	雨休率(係数)
30以上 ~ 70未満	0.75	雨休率(0.7)と(冬期0.8)の1/2
70以上 ~ 100以下	0.8	雨休率(冬期係数)

雨休率(冬期係数0.8)を見込んだ不稼働日数の算出方法  
 例: 不稼働日数 = 施工に必要な実日数(100日) × 雨休率0.8 = 80日  
 その結果、施工日数 = 100日 × 1.8 = 180日となる。

例1: 冬期間が施工期間に占める割合が30%以上70%未満の場合



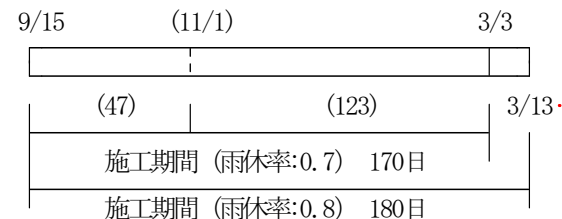
雨休率0.7で算出した施工期間: 170日(施工実日数: 100日, 不稼働日数: 100日 × 0.7 = 70日)

冬期対象期間/施工期間: 109/170 = 0.641 = 0.64 (64%)

雨休率0.75で算出した施工期間: 175日(施工実日数: 100日, 不稼働日数: 100日 × 0.75 = 75日)

結果、施工期間は175日となる。

例2: 冬期間が施工期間に占める割合が70%以上100%以下の場合



雨休率0.7で算出した施工期間: 170日(施工実日数: 100日, 不稼働日数: 100日 × 0.7 = 70日)

冬期対象期間/施工期間: 123/170 = 0.723 = 0.72 (72%)

雨休率0.80で算出した施工期間: 180日(施工実日数: 100日, 不稼働日数: 100日 × 0.8 = 80日)

結果、施工期間は180日となる。